

前回までに、野鳥の春から夏は繁殖、秋は大移動、冬は生きるための採餌とそれぞれの季節の様子を紹介しましたが、最終回となる今回は、「春の野鳥」と題して、野鳥の種の継続とバードウォッチング入門案内などについて紹介します。

1 春の野鳥

今冬は山に樹木の実が少なかったのか年の暮れごろからヒヨドリなどが畑にやってきて白菜やブロッコリーの葉を啄んでいます。近所の畑も野菜にネットを掛けて食害防止です。妻も遅ればせながら啄まれた幾株かを鳥用に残して、葉の芯と食用部が残ったブロッコリーなどにネットを掛けていました。

私が学校に通う頃は、畑に野鳥がやってきて野菜を啄むことはなかったと記憶しています。ヒヨドリも50年前は山では見かけても開作地にある自宅付近で見ることはありませんでしたが、今では住宅地でも一年中我が物顔で飛び回っています。山の生息環境が変わったのか、野鳥が人を恐れなくなったのか分かりませんが、ここ数十年の人の生活様式の変化が影響しているように思えます。

庭や畑に採餌に来ているシロハラやツグミは2月末になると羽が膨らんでややメタボの体型になっています。寒さで羽を膨らましているだけではないようです。北帰行に備えて栄養をしっかりと蓄え込んでいるようです。

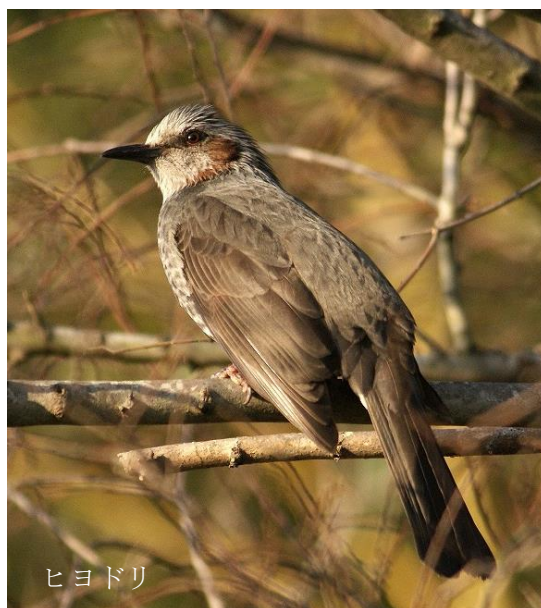
さて、春の野鳥の様子は、秋の野鳥で紹介した「大移動」と同じですが、向かう方向が秋とは逆になります。東南アジア方面に行ったツバメなどの夏鳥は日本へ戻って来ます。ツグミなど冬鳥はシベリア方面に北帰行します。シギ・チドリなどの旅鳥も南半球から北半球のアラスカ方面に行く途中、日本の海岸で採餌しながら北上します。

2月中旬ごろから冬鳥のツルやカモ類が北帰行を始め、小さな冬鳥も3月には順次姿を見なくなります。4月の初めごろにもなるとシロハラも庭の木で「キョロンキョロン」ときれいな囀りを聞かせてくれますが、ある朝突然、鳴き声がしなくなります。

そして、4月の中旬ごろにはヒヨドリも九州から山口へと関門海峡を渡り始めるなど、国内でも比較的暖かい九州方面や低い山々で寒い冬を過ごした漂鳥(留鳥)もそれぞれの棲息地へ戻っていきます。



白菜やブロッコリーに野鳥食害防止のネット掛け



ヒヨドリ

2 鳥の寿命

日本人の平均寿命は、2013年に男も初めて80歳を超え、男80.21歳、女86.61歳となっています。毎年伸びているようですが、私の母も昨秋104歳を迎え身近に100歳越えの長寿者も多くなってきています。

野鳥は人間のような戸籍もなく正確な寿命は分かりません。標識調査(捕獲して足環をつけて放鳥し、再度捕獲されたときにその経過した期間で生息年数が分かる)も最初の捕獲されたときの年齢不明などがあり、限られたデータしか得られません。

野外の小鳥(スズメぐらいの鳥)の平均寿命は1年半とされています。それは1年目の幼鳥のうちには大半(約3/4)が死んでしまうそうです。幼鳥にとって飢えや病気、外敵や悪天候など自然界にはたくさんの危険があります。ツバメも日本で生まれた幼鳥が、翌年日本に戻って来るのは1割程度だそうです。多くの幼鳥が渡りの途中の広い海原でも落鳥していると思われます。ツバメの平均寿命は1.1年、スズメは1.3年というデータもあります。



小鳥は1年間の厳しい自然界をクリアして成鳥になると死亡率が下がってくるので、中には6~7年は生きるものも出てくるそうです。ツルは千年(昔話の中で)といわれますが、一般に大型の鳥ほど長生きするといわれています。ちなみに、標識調査の記録(1990年ごろまでのもの)によるとセグロカモメ36年、マガモ16年、なんとツバメが16年、スズメ6年などがありました。再捕獲されたときの年数ですから捕獲前の期間と再捕獲の後の生存の期間を入れるともっと長い年数になります。



飼育されている鳥は、自然界の野鳥より寿命が長くなるようです。餌や外敵の心配がないからでしょう。なお、日本では法によりウグイスやメジロなど野鳥の飼育は禁止されています。厳しい環境であっても「野の鳥は野に」(中西悟道：1934年日本野鳥の会設立)が一番です。

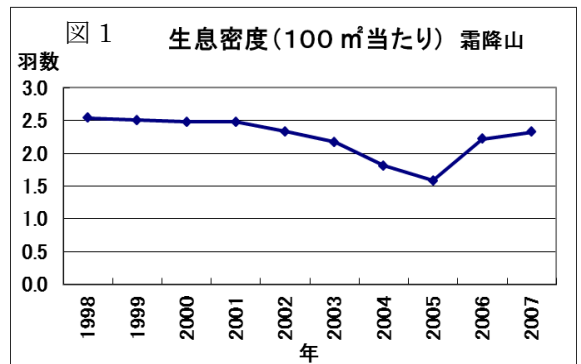
3 霜降山の野鳥の生息変化

さて、野鳥の寿命は小さな野鳥で1年半程度、長生きした個体でも数年ですから人間より短期間で世代交代となります。小さな野鳥では10年も経てば数代交代することになります。

種の継続には世代交代が必須です。霜降山に生息する野鳥たちの種の継続状況を10年間の継続調査から紹介します。

3-1 霜降山における野鳥の種数の変化と環境

1998年3月~2007年2月までの10年間の調査で確認した全ての野鳥の年間平均生息密度(100㎡当り羽数)を図1に示します。最初の4年間は生息密度に変



化はありませんが 5 年目の 2002 年から減少し始め、2005 年には調査当初に比べ 6 割近くまで減少していますが、翌年の 2006 年から回復してきています。

霜降山のこの間の主な環境変化としては、2000 年持世寺川砂防堤完成により駐車用空き地が登山道入り口に新設（持世寺方面からの霜降山登山者が急増）。2002 年宇部高速道路開通。

2004 年（H16,9,7）台風 18 号宇部地区稲作被害甚大（霜降山も倒木や枝葉の吹き飛ばされ甚大）などがあります。特に台風 18 号で樹木の小枝や葉が吹き飛ばされ、枝葉の実や虫類が少なくなったのか、台風後に鳥数が激減し、翌年の 2005 年も四季を通じて鳥数が少ない状況でした。

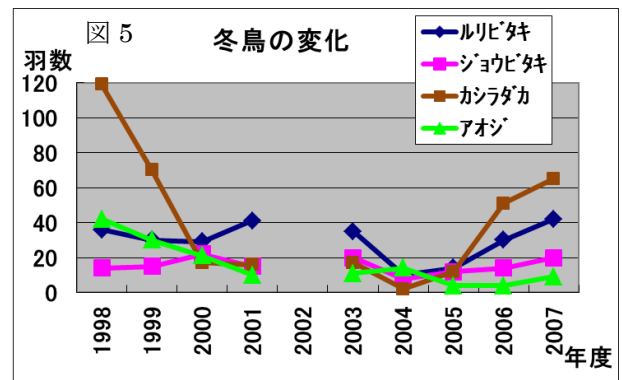
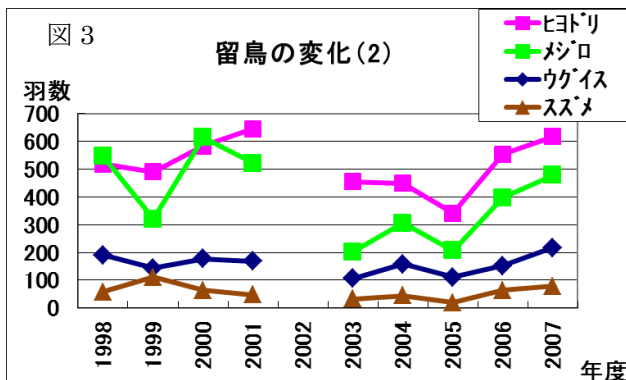
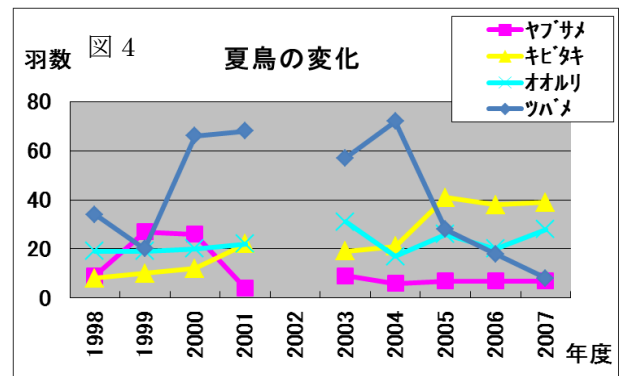
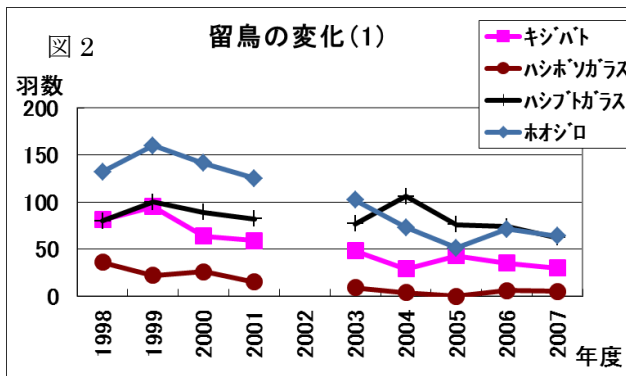


台風直後 H16 年 9 月 H20 年 10 月の山頂

3-2 種別ごとの羽数の変化（有意差の検定）

留鳥・夏鳥・及び冬鳥の主な種について 10 年間の羽数の変化を図 2～5 に示します。

留鳥（図 2）のキジバトやホオジロは減少していますが、留鳥（図 3）のヒヨドリやメジロは一時減少したものの回復してきています。



注 2002 年度は調査区間が一部異なるため除く

夏鳥（図 4）のツバメは減少していますが、キビタキは増加してきています。

冬鳥（図 5）もカシラダカは急激に減少しましたが若干回復傾向です。しかし、アオジは回復までになっていません。

少し難しくなりますが、調査の10年間で、種ごとに検定(F検定・t検定)を行い統計的に有意差が有り、増えた種・減った種を表1に示します。増えた種がカワウとキビタキの2種でしたが、減った種はツバメやキジバトなど10種ありました。その他の種は羽数の多少の増減があるものの統計的には差が認められないものが35種、比較の年度に出現がなく比較できなかった種が41種でした。



10年間の継続調査では霜降山の世代交代は羽数全体でみると継続が行われていますが、種別に見ると増加の種よりも減少の種が多くみられました。

調査期間中に一時、野鳥の生息数が約3/5までに減りましたが、原因と思われる大きな台風で吹き飛ばされた樹木の枝葉の回復とともにいくつかの種を除いて生息数が戻りつつあることが見受けられます。

さて、春の彼岸のころ、散歩する川土手の桜の蕾が膨らみ、ピンク色の頭が覗いてきました。開花まで10日前後と思われますが、このころになると野に花も咲き始め、花を求めて少しばかり虫も見え始めます。台風などの自然現象に翻弄され、また激寒の冬を生き延びるのに必死だった野鳥たちも春を迎えます。

この時期、畑の表土で餌を探すスズメの群れを見ても、群れの中に昨年生まれた幼鳥の約1/4が生き残っていると思うと「よくぞ頑張ったな」と拍手を送りたくありません。空に夏鳥のツバメを見かけるようになると、あの中に昨年生まれた幼鳥の約1割が飛んでいると思うと「小さな身体でよくぞ大海原を超えて戻って来たな」と感嘆します。

成鳥も含め幼鳥の多くが山や大海原などで他の生き物の糧となり、それを礎とするならば、その礎のうえに春を迎えた野鳥たちと思うと、春の野鳥は慈しみの気持ちにさせてくれます。そして試練を乗り越えた野鳥たちに「春の到来とともに種の継続の使命」の思いが湧くのかどうか分かりませんが、それぞれの繁殖地に戻り遺伝子に組み込まれた繁殖への営みが始まります。頑張れと応援したくなります。

ここまで「夏の野鳥」、「秋の野鳥」、「冬の野鳥」そして「春の野鳥」としてそれぞれの季節における野鳥の様子を紹介してきましたが、次に「番外編」として「バードウォッチングと健康」に関することや「バードウォッチングを始めてみようかな」と思われる方へのアドバイスを列挙しました。

4 バードウォッチングと健康

「趣味はバードウォッチングです。」と鳥仲間以外の知人に紹介すると「健康に良いですね。」とよく返事があります。ここでは健康との関係について紹介します。

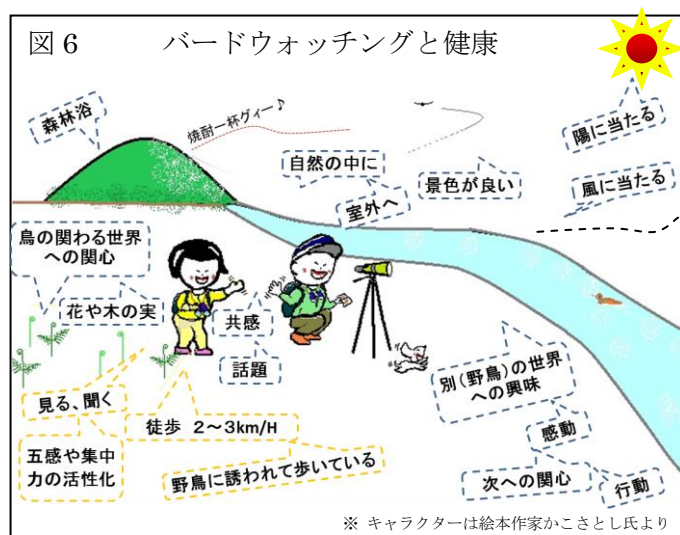
趣味の世界はどなたも健康に良いと感じておられるでしょう。好きなことに没頭するのですから特に精神的な面に良いようです。バードウォッチングもその一つです。健康に良さそうなことを思いつまままに列挙してみます。

表1 出現数の増減

1年目(1999年)に比べ		
No.	増えた種	減った種
	↑	↓
1	カワウ	ゴジュウケイ
2	キビタキ	キジバト
3		ツバメ
4		モズ
5		エナガ
6		ホオジロ
7		アオジ
8		クロジ
9		カワラヒワ
10		ハシボソガラス
合計	2	10

① すがすがしい気分

野鳥は野にいますので、自然の中での活動になります。野鳥は山や川そして海など全ての自然環境にいますので、野外で陽や風にあたりながら、山に行けば森林浴、野では季節毎に花などの趣があり、年間を通じて清々しい気分を感じることができます。デイバッグにお菓子と飲物を入れているのでバードウォッチングはいつもピクニックに行くようなルンルン気分です。



② 軽い運動

探鳥会コースは通常、2～3 km の距離を2時間程度で設定します。歩く速さはゆっくり（時速2 km 前後）でそれも立ち止まって野鳥を見たりするので、足の悪い方でも野鳥に気を惹かれ上り下りの坂道が気にならないようです。しかし、最近は車で目的地まで移動して数十 m の範囲で歩き、また次の目的地まで車で移動するスポット探鳥の方も多くなってきています。カメラで野鳥を撮影する人がこのタイプに多いのですが運動にはなりません。

③ 研ぎ澄まされる五感

野鳥はどこでいつ出現するかわかりません。聞き耳をたて、木の枝や、地面、遠くの空などを注意深く見ます。そのために聴覚や視覚を最大限にレベルアップします。集中力を高める必要があるので脳の活性化になっているはずです。（動物の脳は運動するとき小脳が感覚を司る大脳を活性化するとされています。）

野鳥を見始めた頃は、野鳥の声がしても気づかないことが多いのですが、不思議なもので、2～3年も経つと友人と話しながら歩いても微かな鳥の声に気づきます。また、目線の先でなくても視野の中で動く鳥に気づきます。鳥の声や習性が蓄積されると脳はすごい能力があるなと感心します。

④ 感動

野鳥のきれいな囀りのメロディに心軽くなり、あざやかな羽の彩に驚嘆します。また、飛ぶために進化した身体の構造・機能に驚かされます。最近では飛ぶときに羽音がしないフクロウの羽の仕組みを消音技術に応用されているようです。さらに、あの小さな体で大海を渡ることや、一生懸命に子育てをする親鳥や健気に巣立ちする雛の姿に感動を覚えます。



⑤ 好奇心を誘う

日本に野鳥は約 550 種、世界では 9000 種を超える野鳥が生息していますが、その生態はまだわかっていない部分が多く、タカの生態などは生物学の専門家でも野鳥マニアの好奇心をそそります。

私も野鳥の世界に入って数年経った頃、野鳥の餌となる実の樹木のことを知りたくて里山の研修を受けましたが、私の鳥仲間は植物にも造詣が深くなるなど、野鳥に関連する世界に関心を持つようになります。

以上、思いつくままに列挙しましたが、バードウォッチングが私の脳を活性化し、ボケ進行防止に少しは役立っているかなと思っています。双眼鏡を首にぶら下げていると一見してバードウォッチャーとわかるので、見知らぬ人であっても「なんか出ましたか？」と気軽に声をかけ合います。共感できる仲間が自然と増え心と和みます。

5 バードウォッチングを始める方へ

これから野鳥観察を始めようかと考えている方へのアドバイスをまとめてみました。

(1) 準備するもの（必携品の選び方）

- ① 双眼鏡…小さな野鳥と数メートルの距離でしたら肉眼でも見られますが、距離が10m以上になると羽の模様や識別が困難になり、野鳥を観察するには双眼鏡が必需品となります。

野鳥は動くことが多いので、双眼鏡は視野が明るく扱いやすい性能の良いものを選びます。倍率は7～8倍程度が使い良く、対物レンズ(通常口径30～40mm)は大きいものほど木陰や薄暮時などの薄暗いところでも明るく見やすくなります。価格は2万～5万円程度からありますが、高価でも高級カメラメーカーなどのメーカー品がシャープに見えまた長く使えるので絶対お勧めです。最近はダハプリズム型の双眼鏡が扱いやすく使う人が多くなっています。



① 望遠鏡（スコープ）

双眼鏡も近い距離ですと野鳥の表情も分かりますが、距離が遠くなると物足りなくなります。望遠鏡は10m～数百mの距離の野鳥を見て楽しむことができます。倍率は30倍前後ですが三脚で固定してみますので双眼鏡のような手振れがなく、表情や羽の模様まで見られ格段に感動が高まります。値段は10万円前後と高価なので最初はベテランの方の望遠鏡を覗いて見るようにして、数か月後に様子が分かってから購入されるのが良いです。私は我慢できずに2ヶ月後に買いました。

最近、望遠カメラを使う野鳥マニアが多くなってきました。一眼レフタイプのデジタルカメラに500mm前後の望遠レンズを組み合わせて野鳥を撮影するのです。撮影後、自宅のパソコンで拡大して見ることができ、種の名前が分からなくても仲間に訊ねることができます。私は調査タイプなので野鳥の写真は撮りませんが、鳥仲間もカメラ組が多くなってきました。私にもパソコンのメールで届きますが、カメラの仲間内では撮影した野鳥写真を日記のように送り合っていて楽しみを共有しています。



② 三脚

望遠鏡は三脚に取りつけて使用します。カメラ用の三脚が使えますが雲台を動かすレバー1本で動かしたり固定できる雲台が操作が早くお勧めです。また、遠くを見るので風などでぶれないように大きめのしっかりした三脚が望遠鏡やカメラの性能を生かします。

③ 図鑑

最近は多くの野鳥図鑑が出版されています。カラー写真のものと精密画のものがありますが、最初は識別のポイントが矢印で記入されている精密画のものがお勧めです。同じ図鑑を繰り返し、繰り返し見ることによって野鳥の識別ポイントを早く覚えることができます。写真図鑑は沢山出版されているのでベテランの方に相談して1年後ぐらいに購入するのが良いです。

④ メモ用具

最初は、野鳥の名前を聞いても、10mも歩かないうちに思い出せなくなります。すぐ名前だけでもメモしておくで後から図鑑などで調べることができます。初めて見た種は図鑑の野鳥に年月日や場所を記入しておくで、後日、その野鳥との出会いを鮮明に思い出せます。また、ライフターの記録になり300種達成等の観察意欲の励みになります。

⑤ デイバッグ

野鳥を観察する時は双眼鏡やメモで両手を使うので、荷物はデイバックに入れて担いでいます。デイバックの中には双眼鏡、望遠鏡、図鑑、メモ用具、折りたたみ傘、ウインドブレーカー（小雨や防寒用に使用）、調査用具（カウンター・メジャー・カメラ・ビニール袋等）、救急用品、駄菓子を常時入れて置き、出かける時にデイバックを持てば忘れ物がないようにしています。あと水筒、三脚を持てば出発です。

⑥ 服装

服装は軽いハイキング程度で十分です。夏は日焼け防止、虫よけに長袖が良いでしょう。帽子は必ず着用します。また冬はしっかり防寒しておきます。

(2) 野鳥観察を始めるに当たっての心構え

最初は、探鳥会などに参加して、リーダーから野鳥の名前や識別のポイント、見つけるコツなどのノウハウを伝授してもらうのが一番の早道です。

季節によって、また、山や川などの場所によって現れる野鳥の種が違うので、1年間通して探鳥会に参加すると野鳥の出る時期や場所が分かります。また、参加するうちに気心の合う友達もできます。2年目は、探鳥会で行った場所に、お友達とプライベートのバードウォッチングを楽しめるほどになります。

始めたころは野鳥を見るだけでも楽しく、仕草に感動したりします。しかし、その内見飽きてくると野鳥への関心が薄らいできます。私が野鳥との関わりを23年も続けられたのは、自宅に近い山や川、公園にどんな野鳥が何羽いるのかを1年単位で調べ、記録に残そうと思ったからです。テーマを持って関わると点が線になり、線が面になり、新しい発見があります。それがまた継続の力となります。



(3) 野鳥観察に当たって注意すること

第2回の「8 野鳥観察マナー」で紹介しましたが、自然に親しむ際の心構えとして、野鳥や自然に迷惑をかけないように、日本野鳥の会が図7のフィールドマナー「やさしいきもち」を提唱しています。

自分が人からジロジロ見られるのは嫌な気がするように、野鳥も多分、双眼鏡で見られたり、写真に撮られるのは嫌な気持だろうと思います。特に注意すべきことは野鳥の巣に近づかないことです。

霜降山でサンコウチョウが営巣した時、途中で巣を放棄する出来事がありました。写真マニアが入れ替わり押し掛け、連日数時間もレンズを向けたため、サンコウチョウがストレスを感じ放棄したと思われるのです。多くの野鳥誌で営巣中の野鳥（ヒナも含む）の写真は掲載しないことになっています。

鳥見の極意は、野鳥の声や姿に気づいたとき、野鳥に近づいて行かないことです。より近くに行きたくなるのですが行くと野鳥は飛び去ります。その場で立って動かないことです。そうすると、野鳥はその場所からこちらを見えています。時に野鳥の方から私を見に近づいて来ます。最も近い距離で1 m程度まで来ます。そして、野鳥が納得して飛び去るまで決して追わないことです。

図7 フィールドマナー
や…野外活動、無理なく楽しく
さ…採集は控えて自然はそのままに
し…静かに、そーっと
い…一本道、道から外れないで
き…気をつけよう、写真、給餌、人への迷惑も…持って帰ろう、思い出とゴミ
ち…近づかないで、野鳥の巣



サンコウチョウ

6 終わりに

昨年（H26）の3月11日、宇部常盤会（宇部高専同窓会）の品川博会長から突然電話がありました。そして翌日、次のメールをいただいた。

“宇部常盤会も昨年で設立50年を迎え、また、高専1～3期の卒業生も多くは退職の時期を迎えたことから、同窓生たちの卒業から今に至る軌跡をHPにアップし、「こんな人も居るんだ！（驚き）」や「同じことを考えるのだな～（共感）」などなど、皆さんが楽しめる特集をやりたいと考えていました。母校の創立50周年記念関係行事も終了しましたので、平成26年度からこの企画を始めることとしました。そこで、以前から貴殿の趣味には全く驚かされていた関係上、まず、崖さんから執筆をお願いすることとした次第です。”

この品川博会長の同窓生の軌跡をHP掲載企画に、楽しませてもらったバードウォッチングについて、残学を顧みずに駄文をお届けすることになった次第です。

自分が住む地域の山や川に生息する野鳥調査をライフワークにしたのは次のことがきっかけです。

第1回の在校時の思い出の中に書きました恩師の小川五郎先生が授業中に次のようなことを話された。「人として生まれて来て成すことは、文化を創造しなさい。それができなければ文化を伝えなさい。それも出来なければ長生きしなさい。」（と記憶しているのですが間違っていたら訂正願います。）

卒後50年を2年後に迎える歳になりましたが、先生の論にもかかわらず、成すこともなくただ馬酔を重ねているのみです。その小川五郎先生の影響だったと思いますが、就職したころ、民の文化伝承に視点を置く民俗学に関心を持ったことがあります。

そのことがバードウォッチングを始めた時に、自宅のある身近な山や川にどのような野鳥がいるのか調べてみよう。種や羽数など季節ごとの生息状況を調べ、50年後、100年後に比較ができるように記録に残そうと思うことに繋がりました。

以来、各地を1年単位で調査し、調査記録を簡単にまとめ野鳥グループの会報に投稿してきました。調査データも膨大となり、これからは後日比較しやすいようにデータベース化に取り組み、必要とされる所に寄贈できればと思っています。

最後に、野鳥の趣味に関わってから多くの友人に恵まれましたが、お二人の鳥友を紹介して終わりたいと思います。

お一人は、2007年7月にユネスコ世界遺産に登録された石見銀山遺跡の「石見銀山ガイドの会」前会長のWさん。「自然との調和を評価された石見銀山遺跡ですが、ガイドの時に現れる野鳥も石見銀山の構成要素のひとつ、野鳥について知りたい」とガイドの会をベースに「とりはなむしの会」を立ち上げられ、その熱心な勉強意欲に感心するほどでした。

私も遺跡公園に出る野鳥に興味湧き、3年前、Wさんたちの野鳥勉強のアドバイスを兼ねて毎月1回の探鳥会を始め1年間出向くことになりました。

早朝の探鳥会に間に合うように、石見銀山公園に深夜遅く着き、時には綺麗な星空を見ながらの車中泊。翌朝、遺跡公園に現れる野鳥の名前や習性に感嘆されながら熱心にメモされるWさんたちと楽しい1年間の探鳥会でした。今年の賀状に「その後も毎月1回探鳥会を続けて記録を取っています。」とありました。自然との調和を評価された石見銀山遺跡でガイドの時に現れる石見銀山遺跡の野鳥を紹介できることは楽しいことでしょう。

もう一人は、この度の野鳥紹介ですばらしい野鳥の写真を提供していただいた「塩見和彦氏」。氏は平成20年9月のタカの渡り観察会に参加された時、タカに魅せられ奥さん共々、鳥仲間になられたのですが、平成21年5月に脳出血で倒れられ、休職して闘病生活へ。

野鳥への思いが強かったのでしょうか、発病2ヶ月後に入院中にもかかわらず外出許可を取り、奥さまの介助で霜降山の探鳥会に参加されました。しかし、体力が続かず出発して数百mの地点でリタイヤされる状態でしたが、その後、リハビリを兼ねて霜降山の探鳥コースを奥さまとほぼ日参され、野鳥の写真を撮り始められました。



石見銀山公園駐車場にある銀山遺跡の地形模型



龍源寺間歩入口付近

今では、言語障害などが残るものの野鳥を楽しまれる生活に戻られました。ご本人とご家族の回復への精進はもちろんですが、野鳥からも元気もらい、野鳥を通して写真の腕を磨かれたなど私は思っています。

私は野鳥の生息データの記録のみで野鳥の写真は全くないので、野鳥のユニークな仕草を撮られる塩見和彦氏に写真をお借りしました。おかげで野鳥の種を分かりやすく紹介できました。

ご夫婦はとても仲が良くバードウォッチングはいつもご一緒、ハンドルネーム（インターネット上の掲示板などで名乗るニックネームのこと。）も野鳥です。由来は、ご本人は初めて見た猛禽のミサゴ。奥さまは、猛禽なのにちょっととぼけた？ような顔が大好きでコミミズクです。

（ちなみに私はごみ処分場候補地を反対地元民の立場で調査した時に見つけたバードウォッチャー垂涎の幻の鳥、ヤイロチョウです。）皆さんも自分のお気に入りの1種を見つけられてはいかがですか。

新企画「卒業生達の軌跡」の最初に掲載の機会をいただき、昨年の春から5回にわたって四季それぞれの野鳥の様子を紹介してきましたが、単なる趣味の世界のレベルで、しかも残学非才の駄文にもかかわらず最終回まで御覧いただきありがとうございました。

今回、近隣の山や川に生息する野鳥の様子を紹介する機会をいただき、私の人生を豊かに楽しませてもらった野鳥に少しは恩返しができたようでこの企画に感謝しております。

今日（3/19）の地元紙に「将来見据え 230 人“羽ばたく” 宇部高専で卒業式」と大きな見出しで第49回卒業式と第17回専攻科修了式の記事が載っていました。卒業生の一人ひとりが心豊かな人生にチャレンジされることを願っています。（H27.3.19了）

（野鳥写真 鳥友：塩見和彦氏）

